

# Trial & Error

トライアル・アンド・エラー

No.51

**ETHIOPIA**  
is  
**HUNGRY FOR CHANGE**

**OXFAM**

**HUNGRY FOR CHANGE**

**HUNGRY FOR CHANGE**  
FOR JUSTICE NOT HUNGER

**YOU can help in 4 ways:**

- Recruit signatures for the national petition to the government on the above points
- Write to your MP urging his or her support for the above proposals. Ask him/her to take up your points with the Foreign Secretary, Sir Geoffrey Howe.
- Join Oxfam's Campaign "Hungry for Change". Contact your nearest Oxfam office for details.
- Send a donation to Oxfam's Ethiopia Appeal.

PLEASE ACT TODAY. ETHIOPIA NEEDS YOUR HELP MORE THAN EVER

Oxfam, 274 Banbury Road, Oxford, OX2 70Z

OXFAMに学ぶ .....	2
JVC第3回会員総会 .....	6
REFUGEES .....	10
Dear, My Friend .....	12

オックス ファ ム  
「OXFAMに学ぶ」



1982年に OXFAMと共同で、カンボジアの井戸掘りプロジェクトを始めた時から、3年近くたちました。

JVCの活動が外に内に広がっていく現在、この長い歴史を持つイギリスの民間救援団体を知ることにより、得られるものがあるのではないのでしょうか。

### 1. キャンペーン「変革に飢える」を見る

OXFAMが昨年10月に始めた「やりがいがある」というキャンペーンのパンフレットの表紙には、食べ物を口にする子供の写真の横に「どうやってあなたは助けることができるか？」とある。その中では募金をすることで貢献できるとし、砂漠化が進行しているサヘルの国々——ブルキナファソとニジェール、そしてインド、ペルーでのプロジェクトについて説明している。“村人の直面している問題は、十分な食糧を生産できないことではなく、それを非常に安値で売るように強制されている”ブルキナファソのある村での「穀物銀行」は、その事業の一つである。収穫期に取り入れた農作物を自分たちで買って、新しく造られた穀物貯蔵所に貯え、それを後で公定価格で買い戻すことを目標としている。

ニジェールの菜園のプロジェクトには、水を与えるための缶100個、ジャガイモの種3000kgなどを配る費用を負担していると、具体的な数字もあげている。その結果穀物の生産高は30年間で3倍になり、多い年には輸出さえ行われているという。

一方インドでは、5才以下の子供の85%が栄養失調と推定されていることを指摘し、そして、負債の問題を抱えるペルーにも目を向けている。このキャンペーンの目的は、単なる募金ではなく、「第三世界の飢えと貧困に対する人々の理解を変えること」にある。“HUNGRY”の頭文字“H”をプリントしたトレーナーやステッカーで「あなたの援助を示して」と呼びかける。「エチオピアは『変革に飢える』」というアピールには、「わたしたちはエチオピアからのコーヒーを飲み、一方その国の貧しい人たちは飢えていく」と書かれ、最後の“H”マークに「飢えてはならず正義のために」と付け加える。また、政府へ要求することが援助の1つの方法であるという考えから、「イギリスの下院議員に手紙を書くこと」と、キャンペーンはふくらむ。

### 2. OXFAMとは？

1942年にオックスフォードの住民が、ドイツ支配下のギリシアの子供たちのために、ギリシア赤十字を通して送った3200ポンドの寄付に始まる海外協力は、40年間で1億ポンド（現在、1ポンドは328円。過去、1ポンド1000円だったこともある）にもなる。初期の援助は服や毛布の寄付だったが、活動の範囲が広がっていく1960年代に「劇的な災害というのは、避けられない日常的な現実だ」と知るようになった。現在では緊急救援も続けているが、「飢えと貧困の原因と戦う長期開発」のほうに力を入れている。そこには「もし公平に共有されたならば、世界にはすべての人々の必要を充たす資源がある」という一貫した信念がある。OXFAMの目的は「自分たち自身を変える必要性を感じているべき」と自分にも戻ってくるもの。国内か海外かを選択はしても、統合した役目を果たす運動を通して学ぶ教訓は世論を作り、教育上の仕事の助けとなるべきだと考えている。

また、海外での活動については、自分たちの計画を作るよりも、他の機関やグループに投資をしている。海外にいる現地駐在員が申請を受けて検討し、本部へ送るという方式をとる。

支出の約70%は海外に向けられているが、4～5%を当てている国内の教育活動も重要である。

OXFAMの店(Shop)では、古着や途上国の手工芸品、身障者などのグループの製品などが売られている。(別の会社組織を作り、直接途上国の生産者から品物を買って販売するのを「ブリッジ計画——先進国と途上国の間の架け橋」と呼んでいる)イギリス国内に、こうした店は約660あり、活動に関わっているボランティアは2万人以上。また、リサイクル活動にも取り組んでいて、現在はアルミニウムとボロの布地を集めている。

資金集めの中でも、比重の高いのが4年以上の契約か期間を限定せずに、定期的に送られる寄付である。資金を集めるための催しも行い、また絶えず新しい計画について考えているという。イギリス政府とEC(ヨーロッパ共同体)からの寄付は10%以内である。

現在、ベルギー、カナダ、オーストラリア、アメリカに姉妹組織がある。

### 3. OXFAM—

#### 海外協力の実際

OXFAMの海外での活動の特徴は3つある。つまり、①数多くの国で、②数多くのプロジェクトで、③自助努力を援助している。このことを、具体的に説明すると、

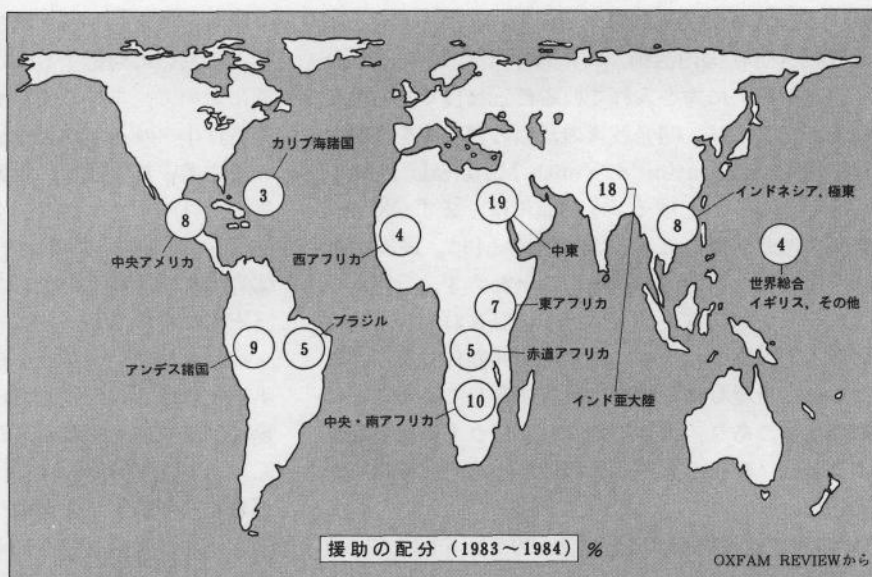
#### ①「数多くの国で」

ひところ日本には、「日本はアジアの国を受け持てばいい、アフリカはヨーロッパの諸国に」という論議があった。それは、エチオピアなどの干ばつ被害の大きささと深刻さに、あるいはマスコミの報道量とそれによる寄付金の額の大きさで、いつのまにか、吹き飛んでしまった。

それにくらべると、OXFAMの活動は、見事なほど世界に広がっている(世界77カ国)。「イギリスは大英帝国時代の植民地が多かったから」という意見もあるだろう。事実、インドには海外活動資金の18%がつぎこまれている(数字は1983-1984年のもの)。しかし、インド以外の極東に8%、ラテン・アメリカ諸国に22%が支出されているのを見れば、「必要なところはどこでも」というOXFAMの姿勢がうかがえる。再確認すべきは、西側諸国が国交を断っている国への援助だ。アメリカなどの援助団体といっしょに支援組織を作り、カンボジアにはここ5年間で2300万ポンドもの資金援助をしている。またベトナムにもロー川流域の水利調整に5万ポンド支出するなど支援を続けている。



飢饉がくる前に戦わなければいけない(JVC ソマリア)



②「数多くのプロジェクト」 OXFAMは77カ国で、実に1850ものプロジェクトを実行している。もちろん29カ所のフィールド・オフィス(現地事務所)に、権限を大幅に移譲していることが想像されるが、それにしても1850ものプロジェクトを管理する組織力は驚嘆に値するものである。

当然のことながら、資金量の豊かなOXFAMといえど、このプロジェクト数では、個々の規模は小さくなる。数多い100ポンド単位のプロジェクトは、長年現地において現場をよく知ったスタッフの存在をぬきにしては、考えられない。

③「自助努力を援助」アフリカのボルタ川の流域では成人の識字教育のために石油ランプを提供。インドネシアでは、漁師、ココナッツ集め、人力車引きに自立援助。南米では小作農の権利を守るために、法律的な仕事に援助。このようにOXFAMの援助は多岐に渡っている。そしてその支出方法に一貫していることは、その土地で自立しようとするプロジェクトへの援助であり、貧しい人々に直接、利益が行きわたるような、小チーム活動の重視である。このようなプロジェクトによって生じた動きこそ、真の変革に結びつくものとしている。

この現地重視の方針は、援助の全体像の見直しにもつながっている。たとえば、医薬品の援助である。薬を援助することは、食糧がそうであったように、将来にわたって高い薬品を売りつけることにはないか。薬草を利用したりする“伝統医療”的なもののほうがいいのではないか、など本質的なものに至っている。

#### 4. OXFAMの開発教育

OXFAMが国内活動、特に青少年を対象とした「開発教育」に力を入れていることは良く知られている。ここでは、開発教育のための資料等を掲載した小冊子『Education & Youth Materials 1984～1985』をとり上げる。(巻頭には、まずOXFAMの基本理念が書いてある。「OXFAMは、民族、性別、宗教または政治の相違にかかわらず、食糧、住居、そして適切な生活条件等が保証されねばならない基本的人権のために、共に働く共同体である。私たちは、日増しに、世界は相互依存していることに気づきつつあり、海外でのプロジェクトに資金を出すことは、変化と発展の過程のほんの一部にしかならない」と。

さて、OXFAMは、その収入の5%を国内での教育活動に委託しているのだが、その資金の一部は青少年教育部に割り当てられている。この青少年教育部は専門家で構成されており、地方事務所が10カ所ほどある。そのスタッフは、学校の教師、青少年活動者やボランティアに助言と助力と訓練を提供し、地方教育当局や青少年組織と共同プログラムを動かしている。その教育活動を系統だてて効果的に進めるための材料となる、様々な報告書、参考資料、子供向けのゲーム等が用意されているわけだが、全て紹介できないので、2,3面白そうだと思うものをとりあげてみる。

##### ①教師のためのハンドブック

###### 『国際社会の移り変わりを学ぶ』

現代の国際社会の勉強を教室で行い、それに關して、なぜ?なにを?どこで?どのように?を探究する。この本のかなりの部分は、すぐに実行に移せるものである。



##### 『論争と決定』・『思考から行動へ』

この互いに対応する本は、相互依存と多文化の世界において、学校の果たす役割に焦点をあてている。前者は小グループの討論活動とその訓練、後者は、人道主義、社会教育、世界平和の学習等、13の中等教育コースとプロジェクトがある。

##### ②青少年の活動者のための資料

###### 『どんな世界?』

地域に根づいた活動を続ける若者の訓練の日々をもとに作成された報告書。若い人達と共に行う活動に国際的次元を持ち込む実践的なアイデアが提示してある。

###### 『むだを節約する人達のワーク・キャンプ』

リサイクルのワーク・キャンプの実践的報告書。様々な節約の指針が含まれている。

##### ③子供向けのゲーム

###### 『農業ゲーム』

子供たちは西アフリカの自営農民となり、何を育てるのか作物を決める。しかし、悪天候や病気になるなどの危険がいっぱい。こうした模擬的ゲームで遊ぶことにより、第3世界への理解と関心を深めていくことができる。この他にも、『絶体絶命ゲーム』、『貿易ゲーム』、『家禽ゲーム』、『本当の援助ゲーム』などがある。

#### 5. OXFAMの広報資料

OXFAMでは幅広い広報活動を行なっているが、その中心となるのが年4回発行のOXFAM・ニュースである。この中ではOXFAMの援助の様子と、それに携わる人々について、多くの写真を交えての報告がされている。その他にも、OXFAMでは援助の記録と活動の報告をも含めて、世論に対するアピールとより一層の理解のために、16ミリ映画、VTRテープ、スライド・セット、展覧会のための資料(パネル、ポスター、チラシ)等が用意されている。以上のような形のアピールの他にも、現状の活動報告をするための書籍も多数出版されている。以上のような形で行われているアピールに共通することは、飢える難民に対する哀れみの心ではなく、困難な状況にも希望を失わず、たくましく生きる人々(バングラディッシュでは、洪水にあっても、水かさの増えた河で網があれば漁業ができると訴える人等)に対して、今私たちが何をしてやれるかなのである。

## 6. ボランティアの仕事

OXFAMでは、いつでも老若男女を問わず、多くの方がボランティアとして参加してくれることを希望している。どんな人でも一人ひとりが力を合わせるにより、OXFAMの活動がより多くの人に理解してもらえる。ボランティアの職種リストには、オフィスでのOXFAM・ニュースや種々のチラシ、広告の発送・配布から、家庭でのセーターや、毛布等の編み物にいたる11項目101種がズラリと並べてある。

OXFAMではOXFAM・ショップ(店・以下ショップ)の経営を行うことにより、インド、バングラディシュなどで作られた民芸品を一般に販売し、収益はOXFAMの活動に充てられ、その収益はOXFAMの年間収入の3分の1を占めている。このショップでも2項目15種にわたりボランティアを募集している。その一つは「あなたもショップの店長になりませんか?」というもの。「あなた自身が新しいショップを開き、新しい仲間を集めて運営しませんか?」というわけである。さらに、「あなたの住む近くにショップがあったならばそのショップの売り上げ増加のために、あなたのキャリアを生かしたボランティアをやってみませんか?」とか、「ショップで共に働く仲間として、寄贈された宝石、骨とう品、ガラス製品その他を評価する価格評価員、時計の修理屋、電気技師、仕入れや配送を行う自動車運転手等々募集しています」と続く。このようにショップの運営を例に挙げても、たいへん多くの職種があり、どんな人でもかならず一つは自分にあてはまるものが見つかるようになっている。11項目のボランティアは、OXFAMの会計、経理業務から資金調達、前述のショップの運営、子供たちへの開発教育に関するもの、宣伝、広告に関するもの、その他雑用までたいへん幅広いものである。「これらのものは誰でもできるというものの、実はたいへん難しいものではないか」と思われる人も多いかと思う。しかし、最後の項目の雑用という中には、自宅でセーターや、毛布を編むこと、身近に集まる古切手を集めること、外国語を学び海外からの情報を翻訳し伝えることなども含まれている。

これらのボランティア・リストから感じることは、誰でもができること、つまり一人でも多くの人にOXFAMの活動、主張を伝えることだったらできるのではないかということだ。第三世界の実情を自分から知ろうとするだけでなく、それを知らない人に一

人でも多く伝えてゆくことがボランティアの基本的仕事であり、だれにでもできることと感じた。



## 7. OXFAM「開発教育」の実践と私たち

“今日の開発途上国が抱える「貧困」や「飢え」の問題と、私たち自身の生活が密接な関係にあると気づかれたなら、あなたは既に海外協力への第一歩を踏み出しています。”

今回OXFAMを取り上げたのは、海外協力を長年続けてきたOXFAMの基本理念と活動への市民参加の形態を学ぶことにより、設立以来6年目を迎えたJVCの活動(特に国内活動)に一つの指針を与えられるのではないかと考えたからです。その歴史、規模、資金、人材のどれをとってみてもOXFAMとJVCとでは比べものになりません。豊かな経験と知識の蓄積を武器に、「誰でもが参加できる市民レベルでの海外協力」の形態を具体的にかつ効果的にOXFAMは提示しています。特に、第3世界を中心とする異文化への理解と関心を喚起すると同時に、この相互依存度の強い世界を構造的に捉えることにより、私たちの意識をも変革していこうという姿勢は、やはり質的に成熟した団体であるなど感じさせます。

私たちにできないのでしょうか? JVCは日本と海外をつなぐ「架け橋」になればと常に考えているわけですが、ともすると一方通行になりがちです。現場の人間が訴えてくる主張を受ける日本国内の個々の人が、可能な範囲で、可能な形態で、自主的に活動のあり方を工夫し、地域に合った方法で運動を展開してゆくならば、JVCもOXFAMに少しは近づけるのではないのでしょうか。またそうした小さくても地道な活動を続けてゆくうちに、日本と海外との接点は見えてくるのではないかとも思います。

〔OXFAM特別研究班〕佐久間典子、高野晃嘉、A.G、巢山ユリア(翻訳)、下蘭宏司  
協力:深津高子、佐藤和美

# JVC 第3回会員総会

6月9日 東京都婦人情報センター



梅雨に入ったばかりの6月9日、JVC第3回会員総会が飯田橋の東京都婦人情報センターで開かれた。午前中は第Ⅰ部アフリカ報告会、午後は第Ⅱ部会員総会、第Ⅲ部フリー・ディスカッションと三部構成で行われた。

## 第Ⅰ部 アフリカ報告会

ソマリアの農業については柴田久史（ソマリア、事業担当）が、エチオピアの緊急医療については林達雄（エチオピア、メディカルコーディネーター）がそれぞれの報告を行った。報告会ということで会員以外の出席者も何人か見られた。

## 第Ⅱ部 総会

まず挨拶に立った岩崎代表は、「会員一人ひとりの総意がJVCを作っているのであって、会長や会則もなく自由に活動に参加し、討議しながら積極的に運動を進めていくのが理想である。現場の集合体、プロジェクト連合体としてJVCは存在している」と、JVCの組織としてのあり方を述べた。

また、議事に入る前に事務局から現在の会員の入会状況について説明があり、昨年の同期には411人の会員しかいなかったが現在は782人に増えたことを伝えた。これは昨年から今年にかけてのアフリカブームによるものと思われるが、会員の友人・知人への紹介、上映会、バザー・古着を集めるキャンペーンなど日ごろの地道な活動の成果でもある。

## 84年度活動報告・決算報告

熊岡路矢

JVCは設立当初から欧米の団体があまりやらない“小さな援助”に力を注いできたが、84年になって新しい展開をみることになった。エチオピアにおける医療活動である。緊急救援には莫大な資金、有能な人材を要求されるが、今までのJVCにはその力がなかった。タイ、レバノン、ソマリアなどの活動の積み重ねがエチオピアの緊急救援に結びついたものと思われる。これが医療として終るか、緑の問題に発展するかは今後の課題である。

タイについては活動を見なおす時期にきている。スラム・農村を対象とした活動が現在設定されており、更に広範なところに目が向くがまだ開発について深くかかわれる実力が無い。

ソマリアの農業プロジェクトは一応の成果は見たが、ブルドーザーやディーゼルを使わずに農業を続けていく技術が必要と思われる。機械を使わない方法を模索中である。

JVCの活動はそれぞれ自発的な興味と関心から成立している。組織や団体が確立されると大きな会社のようにしてしまう危険性がある。総合的な観点を持って仕事をするというのわれわれの特長である。問題点としては、日本は現在は助ける側に立っているが、日本やアメリカなどをモデルとした開発を進めていくのは正しいのかどうか、またプログラムの中で一つの活動をやるだけでなく、それぞれの基本的な生活態度がプログラムと密接につながっているということを実感するということがあげられる。

引き続き各現場からの報告および会計報告が行なわれ、その中で84年度後半にかけて飛躍的に事業費が伸びたがその割には管理費が少なすぎることが監査委員から指摘された。

#### 85年度活動計画・予算

##### エチオピア—林達雄

医療プロジェクトはこれから6カ月から1年半ぐらい続くと思うがいかにやめさせていくかが問題。現地の人に引き継いでもらえるよう勉強してもらっている。今後は病院に來れない人のためこちらから出向いて行って診療したい。医療スタッフの人数は増加しているが体調を悪くしている人もいるので増員が必要。またこれからは植林とか農業の技術を持った人も参加してくれればと思う。

##### ソマリア—柴田久史

昨年までは土木工事がほとんどだったが今年からは本格的に農業に入る。塩害によりポンプが使えないのでそれを風車、水車に替えて砂漠での農業に取りくむ。今年には新たに50haの農地を拡張し、このプロジェクトは1990年ごろまでは続けたい。更に今年には砂漠での農業の可能性を知るために自然農法家の福岡正信さんをソマリアに派遣し、いろいろな角度から農業を追求する。福岡さんを送るため“砂漠に種を蒔く人の会”を設立した。

##### タイ—星野昌子

4月27日の執行委員会では時間切れのためタイの農村開発のプロジェクトについて十分に審議することができなかった。またその前に事務局内部でも意見のまとまりがなかった。従って再び内部討議を重ねた結果、まだわれわれにその力がないと判断しこのプロジェクトについては85年度の事業計画には提案しないことにした。これらのことについては当然執行委員会を経て提案すべきことだったがそういういきさつがあったことをおことわりする。農村の給水については今までに掘った井戸の点検、修理は継続する。

##### 日本語家庭教師—森山久寿子

現在は何の辺で終了させたらいいのかという点が課題である。人間関係も大きな問題であるが、ボランティア研修をやる中でどうしたことが難民のためになるのか見出していきたい。また昨年10月に日本語教室を開き、自発的に社会に出てきてもらうようにしている。今後日本語以外に彼らとどのようにかかわっていったらいいのかなどの課題を残している。

##### 広報—下園宏司

事務局は今まで会員一人ひとりに十分な対応ができなかった。そのような反省をふまえ、今後は広報資料を充実させていきたい。ビデオ、パネルなども充実させるので地方の会員も積極的に報告会などを準備し、東京事務所をもっと利用してほしい。

##### 予算案の説明—高塚政生

アフリカの割合が大きいのはプロジェクトが拡大されているためであるが、アジアが減ったのは全体の予算が拡大したためで実際の額はそんなに変化はない。昨年の繰り越し金がかかなりあるので今年5千万円増やせばいいのだが、次の年のことを考えると来年の2月ごろには2億円は集めなければならない。5億円というお金を動かすということに責任を感じている。毎週の事務所でのミーティングを通じ自己研鑽しながらやっていきたいと思う。

#### 質疑応答

渡辺 — 事務局と地域にちらばっている人々との関係、現在の評価についてお聞きしたい。

— JVCは一つの原理から個々のプロジェクトが生まれたのではないので全体として評価するのは難しい。その地域、人々に対してどうだったかを個々に評価している。現在のそれぞれの活動については様々な討議、アドバイスを積み重ねていったもので、我われ自身も学べるプログラムだと思っている。

— 昨年からアフリカのプロジェクトが活発になったためより多くの新しいボランティアを巻きこむことになったと思う。

栗野 — タイの地域開発プロジェクトについて先の執行委員会では審議未了のまま終わったのだが、この予算案を見ると突然消えてしまっている。後の自由討議の時間をさいても審議する価値があると思ったのだが。そこでプロジェクトをつくる基本のあり方について考えていただきたい。難民、開発など幅のある目的の中でJVCの実力でどこを重点にするか考えざるを得ない。タイの農村は貧しい。しかし彼らはその気になれば自分たちで井戸を掘ることもできる。開発援助は望ましいことではあるが、その前にやるのが多くあるという状況では後まわしにせざるを得ない。そのようなことを執行委員会やプロジェクトを作る段階でもっと検討した方がよい。

実際はこのプロジェクトはなくなってしまったのでこれ以上はいえないが、あの時具体的に名前があがっていたスタッフはどうなるのか。

— 農村開発のプロジェクトに関してはJVCのやれることが不明確だったため事務所の会議、論議を経た上自分としては計画が練り上げられていないと判断し、取り下げ総会に提案しないことにした。

またこのプロジェクトに参加する予定だった二人については3カ月以内に他のプロジェクト・プロポーザルが認められなければ継続して働いてもらうということはない。

— 農村開発を考えた場合、井戸を掘るということ以上に村人と接していくものが要求されるが、タイの内部における社会的状況もあって二人のタイ人には村人と一歩隔たりをおいて指導してやるというところがある。また人間として共感していくものが少なかったのでこのプロジェクトは今回ははずした。

**栗野** — タイの事務所全体のあり方としては仕事が減るにつれて人を減らしていくのかどうか。ここでもちゃんとした方向づけがなされるべきだ。

— タイの活動全体について引いていくのか、高揚していくのかはいえない。具体的なプロジェクト一つ一つの検証の結果、隆盛に向かうのか下降に向かうのかという形である。従って方針として盛り上げていくのか静めていくのかはなかなかいいきれない。タイの“難民同様に恵まれない人々”も暗中模索の段階であるが、確信があったら続けていきたい。

**見坊** — 総会に提案されていない活動計画を討議してもよくわからない。その件については総会の意志とせず、充分執行委員会で討議されることを望む。緊急性もあることだし活動計画については執行委員会に一任する。

**斎藤** — 日本語家庭教師の予算が足りないということだが先年度に比べて二倍になっていても足りないのか。

— 予算の申請額は昨年と同じく700万円を申請したが、実際にはその半分しか集まらなかった。

**川口** — 日本語についてはいろいろな団体がやっていて現場で難民の奪いあいをやっているという。難民の側にもいやなことがあると思うがその辺はどうか。また日本語家庭教師の件費とは何か。

— いろいろなグループが活動していて収拾できないことも事実である。今年度から定住難民にかかわっている団体が集まり、協議会、連絡会を作ろうと動いている最中である。また各民族の協会とも協力してサービスの不平等あるいはやりすぎがないようにしたい。人件費は森山が専従として莫大な情報の処理、調整をしているのでその専従としての人件費



活発な意見の交換がみられた

である。

(この他にも質問、意見等がありました。誌面の都合上割愛させていただきました — 編集部)

質疑応答の後、84年度活動報告・決算報告及び85年度活動計画・予算は承認された。

引き続き執行委員の改選が行われた。これには4月27日執行委員会で執行委員選定委員会を設けてここで審議するよう決定していたので、同委員会の笹尾氏から12人の候補者の名前が挙げられた。特に異議はなかったのでその12人が新しい執行委員に選ばれた。12人は以下のとおりである。岩崎(これまでのJVC代表)、大橋(シャプラニール)、荻野(エチオピア)、木内(シェアー)、熊岡(JVC事務局次長)、栗野(UNHCR)、小林(日本語家庭教師)、税田(ソマリア)、佐藤(タイ)、関(バザー)、星野(JVC事務局長)、室(東和大学)。

執行委員の定員は15人であるが、今後の活動の展開を考え、12人に抑えられた。なお先の12人の中から再び岩崎氏が執行委員の代表に選ばれた。なお監査委員は笹尾(全国社会福祉協議会)、丹羽(公認会計士)の両氏が留任となった。

### 第Ⅲ部 フリー・ディスカッション

ここでは会員対事務局という図式の質疑応答のわくを出た形での討論を期待したが、実際は質疑応答になってしまった。「ボランティアの健康問題への配慮がほしい」、「日本は定住難民のわくが厳しいがJVCはどう思うか」などの意見が出されたが、総会に時間を取られてしまったので十分なディスカッションができず、それぞれの話題は二次会、三次会に持ちこされた。

# JVC '84 年度決算報告と '85 年度予算

収支計算書 (自1984年4月1日至1985年3月31日)

単位：円

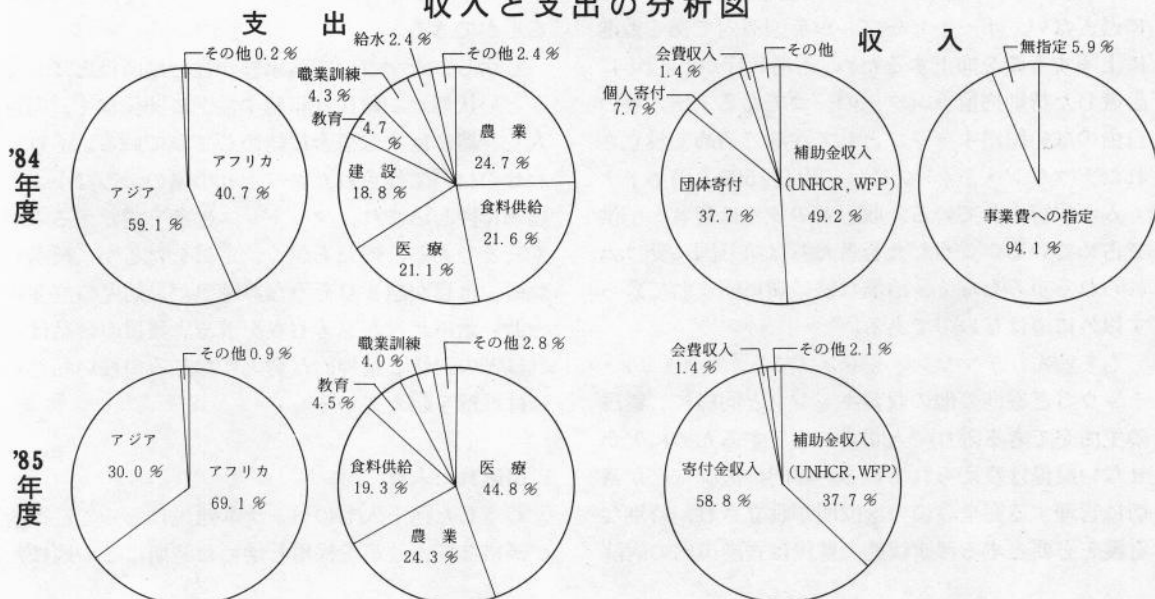
支出の部			収入の部		
科目	金額	構成比(%)	科目	金額	構成比(%)
事業費	296,507,354	64.3	補助金収入	226,144,013	49.2
管理費	38,053,122	8.3	事業指定寄付金収入	183,155,162	39.7
調査費	3,445,636	0.7	一般寄付金収入	25,506,460	5.5
			会費収入	6,543,219	1.4
			機関誌購読料収入	2,052,325	0.4
小計	338,006,112	73.3	ソマリア前年度 プロジェクト費戻入	11,280,911	2.4
当期収支差額	122,961,048	26.7	その他の収入	6,285,070	1.4
合計	460,967,160	100.0	合計	460,967,160	100.0

予 算 書 (自1985年4月1日至1986年3月31日)

単位：円

支出の部			収入の部		
科目	予算額	構成比(%)	科目	予算額	構成比(%)
事業費	408,203,636	81.5	補助金収入(UNHCR/WFP)	189,294,374	37.7
管理費	46,962,353	9.4	寄付金収入	294,000,000	58.8
予備費	45,516,599	9.1	会費収入	7,200,000	1.4
			機関誌購読料収入	2,500,000	0.5
			受取利息	7,000,000	1.4
			その他収入	688,214	0.2
合計	500,682,588	100.0	合計	500,682,588	100.0

## 収入と支出の分析図



# REFUGEES

香港

## ボート・ピープルの“監獄島”

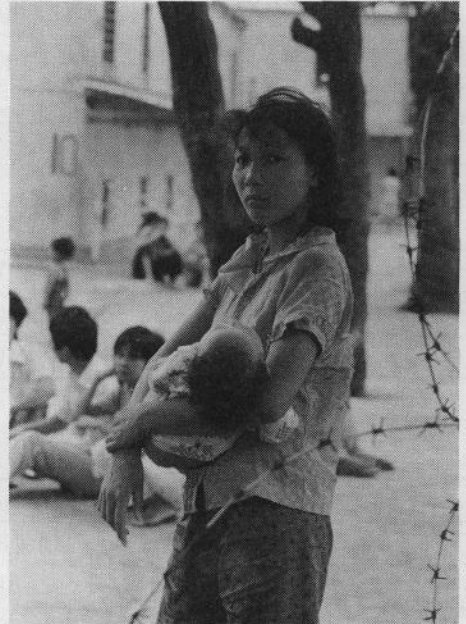
### チマワン・キャンプ

香港の九竜地区からチマワン半島のあるランタオ島まで船で1時間足らずである。市街地の商業地域が醸し出す騒がしい雰囲気を離れ、香港の沿岸を航行すると、市内の喧騒は次第に遠のき、ちょっとした船旅ののどかな気分を味わうことができる。

水平線にランタオ島の一角にあるチマワン半島の輪郭が見えてくる。緑なす樹々、重なりあう岩、白砂の連なる海岸線…。贅沢で華やか、けばけばしいような異国趣味……リゾート観光地として有名なランタオ島を紹介する、観光写真の数々が心をよぎる。避寒に訪れるヨーロッパ人の夢、そして失望……しかし、突然眼前に現れるのは、地面から何メートルもの高さで連なる杭の列にからまる鉄条網である。

ゲートはすべて鍵がかけられ、制服の警備員がものしく警戒している。見張り台が各所に立てられ、「この地区は嚴重な監視下にある」という掲示板がある。外見とは異って、この島は刑務所なのだろうか。しかし実際はベトナム難民の収容キャンプに過ぎない。ボート・ピープルが英国領内である香港に上陸するのを抑止するため、香港政庁が1982年に設置した特別拘留センターの一つである。出入りの自由のない閉鎖キャンプとして香港で初めて設立されたチマワン・キャンプには、現在2500人のベトナム人が収容されている。収容者の多くは若者と子供で占めている。こうした若者たちは第三国に受け入れられる望みもなく、冷酷な鉄条網に囲まれて暮らす以外に道はないのである。

もちろん、チマワン・キャンプでも、ヘイ・リン・チャウなど香港の他の収容キャンプと同様に、難民の生活をできる限り“人間らしく”するために欠かせない設備は整えられている。専門の医師などが適切に管理する完全設備の診療所が設立され、特別な看護を必要とする健康状態の難民は香港市内の病院



チマワン・キャンプで

へ移される。民間団体のボランティアが何人も訪れ、難民に初歩的なフランス語と英語を教えている。これは、万事がうまくいって幸運にも難民がアメリカやカナダ、オーストラリアなどの担当官からインタビューを受けるとき、大変有利となるものである。キャンプは決して大きくはないのに、バレーボールやバスケットボールのコートがあり、時間をつぶすことができる。

しかし、チマワンで各家族が住む場所とはとにかくひどい状態だ。難民は年齢や性別に関係なく、何百人も一緒に巨大な宿舎に詰めこまれている。ありあわせの材料で作られたニワトリ小屋のような小さな建物に押し込まれ、マットレスに身を横たえるのがやっとなのである。換気も悪く、定員をはるかに超過した宿舎は息が詰まりそうな雰囲気だ。幼児の泣き声と低い話声だけが息苦しさを破る。難民の会話はこれほどの窮状と精神的な窮乏になじみのない私たちには理解を超えている。

### 出遅れた人々

こうした何千人ものベトナム難民にとって、香港が厳格な抑止政策を採用し始めた時期にこの地にた



どり着いたのが不運であったとすれば、彼らを最も苦しめているのは情緒的な苦痛である。すなわち、各国政府も一般の世論も次第にポートピープルへの関心を失いつつある今、第三国に定住できる可能性がますます減少していることを身にしみて感じる、という苦痛である。1985年現在、香港の収容施設に滞留する難民は、マレーシアやタイ、インドネシアなどにいる難民と同じように、文字通り、歴史に忘れられた者、既に終了したと世界中が考えているできごとの付録にも似た存在なのである。

しかし香港には、収容者がもっと快適な環境で生活している難民センターも存在している。こうしたセンターは市街地の中に作られており、香港に滞在する難民1万1544人(1985年3月1日現在)の半分以上が収容されている。これらは“オープン”センター(出入り自由な難民センター)と呼ばれ、ここでは働ける年齢の難民は香港の一般社会で就業できるのである。もっとも賃金は香港の平均水準よりも低いということではあるが。

ジュビリー・センターはその典型的な一例である。私たちが同所を訪問した日に残っていたのは子供たちだけで、ボランティアのソーシャル・ワーカーが面倒をみていた。チマワンとは全く対照的で、子供たちの言動さえも違って見える。私たちの質問に答えてくれたキリスト教民間団体のソーシャル・ワーカーのことばも、この印象を裏付けるものであった。ジュビリー・センターでは、難民の苦労は他の閉鎖キャンプと比較にならないほど軽いものだ。理由は全く単純で幸運にも1982年7月以前に香港にたどりついたというだけである。とはいっても、オープン・

センターの難民が第三国に受け入れられる可能性がより大きいわけではない。しかし、彼らは少なくとも雇用される機会があり、時がたてば香港社会の一員となって定着することを期待できる。またジュビリー・キャンプの収容者は、閉鎖キャンプの難民が抱える精神的な問題に悩まされることもない。その違いの原因はただ一つ、1982年以降に設置された難民キャンプが刑務所のような性格を持っていることにある。

外国人がこうした非人間的なやり方を見ると、香港はあまりにひどいのではないかと考えたがるかも知れない。このような施策は、1951年の国連難民条約の精神と条文を踏みにじるものである。さらに香港はその特異な立場ゆえに、難民条約に加入していない。ただし、香港の事例はきわめて特殊なケースであることを認識する必要がある。というのは、香港は現在すでにきわめて人口密度の高い(1平方キロあたり5000人)都市であり、常に中国本土から密入国者の流入にさらされているため、ポートピープルの新規流入を何とか阻止しなければならない事情にあるからである。1982年7月1日付の政令は、たしかに抑止策として効果があったが予期されたほどではなかった。その日をもって香港に到着するポートピープルの数のはっきりと激減したわけではないからである。ここから、この政令の効果について疑問を抱く向きも少なくない。

事実、私たちが現地を観察し、難民と語りあったところによると、たとえチマワンやカイククの拘留センターに収容されるとしても、ベトナムに残るよりはましだと感じている者の数は非常に多いのである。一見矛盾して見えるこの事実は、政治的な難民がある環境の中でいかに奇妙な反応を示すものであるか、を示している。自己の生まれた国に留まるか、それとも辛うじてたどりついた香港に強制収容所であっても滞在すべきか、この選択は理性的に慎重に判断されるのではない。結局は、実現の可能性がきわめて薄くても、アメリカに行けるといふかすかな望みを託して祖国を離れなければならない事情がすべてとなってしまふのである。

(フィリップ グランジャン)

# Dear, My Friend

(原稿、お待ちしております。1000字ぐらい。)

## タイの雨期

本橋 栄

タイは今年、雨期のおとずれが早く5月初旬からまとまった雨が降るようになった。

タイの旧暦の新年は4月中旬に始まり、新学期は6月からである。タイにいとそれがふさわしく思える。猛暑が盛りをすぎて雨期に入ると、雨で土地が潤い、田畑は一面の緑となる。カエルが鳴きだし、牛たちが草の芽をはむ。苗代がつくられ、田おこしが始まる。心なごむ、心はずむ季節だ。

昨年11月から続いたタイーカンボジア国境の戦闘も雨期が来て休止状態となり、一応静かになった。毎年繰り返されてきたこととはいえ、今回は特に執拗な乾期攻勢だった。炸裂した砲弾の破片を見た。小さくてもズシリと重く、矢じりのように断面が鋭い。これが焼けて飛び散って、肉を切り、内臓を食い破る。

砲撃は夜半から未明にかけて襲いかかる。けっきよく約24万人の国境のカンボジア人のすべてが、追われてタイ領内へ逃難した。難民だけではなく国境周辺のタイの村も長期にわたって村を離れなければならなかった。例えばノンチャン難民村にいた人々

## 砂漠に種を蒔く

鴉田 三芳

さる3月、福岡正信さんがJVCに来られた。四国の片田舎で40年以上も、“無”の哲学に立つ自然農法を実践してきた方である。その自然農法とは、耕さず(不耕起)、肥料を施さず(無肥料)、農薬を使わず(無農薬)、除草せず(無除草)、<sup>刈</sup>剪定も行わない(無剪定)ことを5大原則としている。まさに、人知・人為を結集した近代的科学農法とは逆行する、“無”の農法である。福岡さんと虫が共同で生んだ稲の新品種ハッピーヒルは、強健なうえ多収性を持ついたり、自然農法の正しさを証明した。

は、5カ月ばかりの間に4回も移動しなければならなかった。その度に、ビニールのテントから始まって竹の小屋を建てる作業が一からやりなおしとなる。病院がつくられ、トイレやそして学校が建てられる。

いわゆる悲惨さや暗さはここにはない。久しぶりにバンコクからやってきた私を見つけて、顔見知りのおばさんが「おいでよ、ま、おすすめ」と人なつこい笑顔を見せてくれた。したたかな人々の日々の営みがある。

しかし、このありさまはやはり異常だ。今の季節に、多くがもともと農民である彼らは米をつくることを許されない。彼らが食べている米は、日本政府が出した金で国連がタイから買っている。ところがタイの農民、特に国境に近い東北タイは貧しくて食うや食わず。食いつめた人々がバンコクへ流れる。行き場のない人々はクロントイなどのスラムの住人となりその多くが日雇いの人夫となる。

タイの米は数10万トンという単位でセネガルなどアフリカへも輸出されている。沖仲士たちがひとつ100キロの米袋を運んで船に積んでいる。布袋にふりかけられた殺虫剤や防腐剤を浴びながら、そして強壮剤や鎮痛剤の中毒となって疲労をまぎらわしながらである。

こうした現実を知るにつけ、国境で働くものの思いは複雑だ。

福岡さんがJVCを訪れたのは、地球的規模で進行する砂漠化をくい止め、緑を復活する平和運動を始めるための、具体的な活動地を捜すことであった。

一方、2年前から着手したソマリアでのJVC農業プロジェクトは、他のボランティア団体および国連機関と同様、今、大きな課題をかかえている。乾燥地に適する灌漑農業は、ソマリアという国にとっては高価で近代的なディーゼルポンプと高価な石油を私たちが持ち込むことで成功している。すなわち、援助という枠内でうまくいっているに過ぎない。裏を返せば、私たちJVCがソマリアを去れば、たちどころに緑の農場が砂漠に戻ることにかなりかねないし、このような弱い基盤に“難民の自立”はありえない。まさに私たちも、近代的科学農法とは逆行する、自然農法を試行すべき時がきており、福岡さんの志に

賛同した。

さらに、資源小国・日本に目を向ければ、近代工業化と農業政策の失敗により、今や、潜在的“飢餓”国となってしまった。この事実を直視し、日常生活のレベルから問題の解決に取り組む消費者グループの中で、乳研連合会と中部リサイクル運動市民の会も、福岡さんの提唱する“緑を復活する平和運動”に強くひかれるものがあった。乳研連合会は、輸入穀物に依頼している一般的な日本の酪農構造に反旗をひるがえす運動を10年以上も展開してきた。また、中部リサイクル運動市民の会は、その名の通り、各種の日用品をリサイクルし、これを営業ベースにまでさせた、満5才の団体である。両団体とも、国内活動の枠内から、必然的に海外の諸問題にまで指向し始めたのである。

福岡さんと以上の2団体とJVCが中心となり、「砂漠に種をまく人の会」を5月16日に設立し、事務局を乳研連合会の内に置いた。運動の理念はもとより、互いに異なる活動内容、活動地などを超え、ひとつの目的・目標に向け、集うことの意義は極めて大きい。JVCとしても初めてのケースではないだろうか。

新聞にこの設立が報じられ、200万円以上の支援金が既に寄せられ、また、300kgをこえる様々な種が届いている。これらを携え、福岡さん、乳研連合会の青木さん、JVCからは私、この3名が8月上旬にJVCソマリア農場に向う予定である。

可能な限りの調査と現場でのプログラム作りを行ない、8月下旬に帰国する。もちろん、持参する種もまいてくる。9月におとずれる小雨季に希望を託して。

### 最近よんだ本

『あの子供たちが生前のたうち回っていた、“苦の泥の海”の淵を徹底的に見てみようと思った。そして、だれがあの子らをそこに投げこんだのかを……。』(本文64ページ)

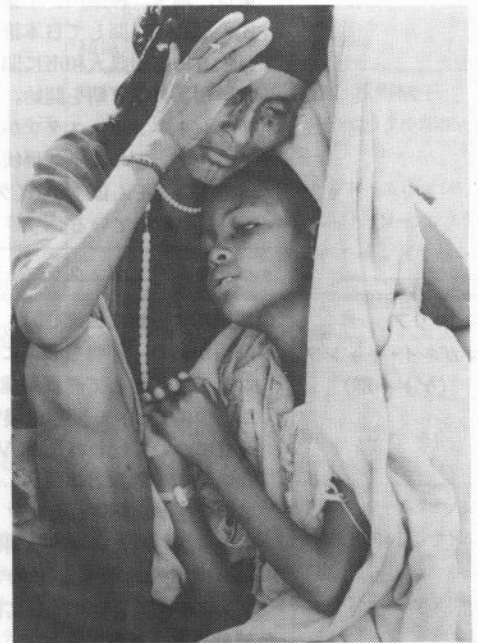
前略 野町和嘉様。今、あなたの写真集『バハル』『サハラ悠遠』を目の前にしてこの手紙を書いております。あなたの写真は、まるで自分自身の肉体と魂がアフリカの大地に溶け込んでしまったかの如く、静かに優しくかつ力強く訴えかけてきます。時には無色透明の空気のように、あなたの存在すらも感じさせずに。アフリカをこよなく愛し、そこに生きる人々のありのままの生活を映し出すことを身上とするあなたの写真に、私は言いようもない安らぎと生命感、そして神秘を感じたものです。

しかし、なぜあなたのような人が『飢えを喰らう』なのですか？あなたが撮らずとも、他にカメラマンはたくさんいるではありませんか？いや、もうこのような愚問はやめましょう。あなたはカメラマンである以前に、人の生命がどんなに重いものであるか痛いほど分っている一人の人間であることを忘れていました。手も届かないような大きな力の誤作用一つによって、私のようなごく普通の生活を営む者が、いかに惨めな運命を辿らねばならな

(株)情報センター出版局  
野町和嘉 著

### 『飢えを喰らう』

いまは嘆きの大地、エチオピア



いか。分りました。もう一度この写真集を読み返してみましょ。すでに涙が乾いてしまった私ですが、何が真実で何が虚偽であるのか確かめるために。そして、あなたが愛するエチオピアに、もう二度と入国できないかもしれないという今回の取材に応えるためにも。

草々  
(下)

# JVCプロジェクト

1985年6月25日現在

☆個人の方からの寄付につきましては、月ごとに集計を出し、裏表紙に掲載しております。  
個々の方のお名前は半年ごとに一括してご報告いたしております。

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
東京本部	<p>涉外，事業計画，資金調達，ボランティア調整，会計，総務，情報収集および広報等。</p> <p>機関誌『トライアル・アンド・エラー』発行</p> <p>JVC説明会～毎月第1月曜日 午後6時～9時 第3日曜日 午後1時～4時</p>	全国社会福祉協議会	<p>岩崎駿介（代表）</p> <p>星野昌子（事務局長）</p> <p>熊岡路矢，鶴田三芳</p> <p>佐々木志保，下藪宏司</p> <p>前川昌代，高塚政生</p> <p>柴田久史，斉藤美香代</p> <p>他15人</p>
日本国内	<p>●日本語家庭教師</p> <p>東京，埼玉，神奈川，千葉，山梨に定住している難民の家庭を訪問して日本語及び生活の指導。昨年10月より神奈川県大和市に開校した日本語教室は，5月中旬より第Ⅲ期を開始。最近はインドシナ以外のイラン・アフガニスタンからの難民の情報が入ってくるので，どのような現状にあるのか調査中である。機関誌の『そんぼんと』（クメール語で“手紙”の意）を毎月発行している。</p>	<p>禅林寺</p> <p>UNHCR</p> <p>(財)アジア福祉教育財団，難民事業本部</p>	<p>森山久寿子</p> <p>地区別連絡係11人</p> <p>他約70人</p>
	*バザー，ハンディクラフト販売		関 田鶴子 他約20人
ソマリア マガネイ・キャンプ (ゲドー郡)	<p>●農業による自立促進</p> <p>降雨があり，作物も順調に育っている。自立へのワンステップとして灌漑農業教室を始めた。クラスをふたつに分け，一回目は農業技術，灌漑技術，農場運営について行われた。JVCソマリアスタッフと農民の間で“難民とは何か”が議論された。識字教室が再開された。クラスを能力別に分け，日本から送られたノート，鉛筆を使っている。全体ミーティングが開かれ，次々に病気で入院するボランティアの健康管理について話し合う。</p> <p>●補助給食／基礎医療</p> <p>依然として状況は流動的だが，マグドーキャンプで補助給食，基礎医療を継続中。マグドーとジャララクシ2カ所に活動が拡大されると来年度の資金のめどはたっていない。</p>	<p>UNHCR</p> <p>レフュジーズ・インターナショナル</p> <p>朝日新聞厚生文化事業団</p> <p>仏国土をつくらう会</p> <p>創価学会</p> <p>ジャパン・タイムズ</p> <p>九段ライオンズクラブ</p> <p>秋田大学「アフリカ難民を助ける会」</p>	<p>税田芳三(ソマリア事務所長)，山口誠史，掛村 均</p> <p>高橋一馬，米澤 聡</p> <p>久保祐輔，柿原建三</p> <p>モハメッド・アデン・モハメッド，シャッド・モハメッド・ムザール，ラジッド・モハメッド・ランジャイル，サディック・モハメッド・アリ，モハメッド・ハジ・ヌール</p> <p>嶋 紀晶，樫田秀樹</p> <p>角田正恵，石井弘代</p> <p>現地スタッフ25人</p>
エチオピア アジバール (ウォロ州)	<p>●緊急医療／治療のための給食</p> <p>入院患者数 180～200人</p> <p>外来患者数 150～180人</p> <p>診察・給食・現地のワーカーに衛生教育を行っている。入院患者も彼らから衛生教育を受けている。今後は移動診療を行い，アジバールの村の人々の治療にあたる。</p>	<p>朝日新聞厚生文化事業団</p> <p>立正佼成会</p> <p>神奈川県</p>	<p>仲佐 保，吉野 浄</p> <p>石井清美，鈴木妙子</p> <p>太田律子，荻野美智子</p> <p>工藤美美子，福村州馬</p> <p>加納 妙，内山田 康</p> <p>現地スタッフ84人</p>

活動地区	活動内容	出資団体	担当者
バンコク事務所	渉外、事業計画、資金調達、ボランティア調整、会計、総務、情報収集および広報、バザー等。 季刊『ニュース・レター』（英語・タイ語）発行	全国社会福祉協議会	佐藤正喜（バンコク事務所長）、本橋 栄 ボンピモン・チャイブーン 原藤秀子 ティアン・バントゥー 他約10人
カオイダン （カンボジア 難民キャンプ）	●西崎憲司記念技術学校 自転車、牛車、モーターバイク、自動車、水ポンプ、発電機の整備技術を習得する。現在は新校舎にて開校。	UNHCR レフュジーズ・インターナショナル 妙心寺派宗務所 花園会	トンディー・ソムカネ 古西 勇 ソムヨック・ラタナタム 熊木政江
タイ・カンボジア 国境 （カンボジア 難民村）	●レントゲン移動診療 移動レントゲン車による、難民村及びタイ被災村の巡回レントゲン診療。 バンブー村、サイト2、サイト6にて活動開始。	WFP/UNBRO 日本青年会議所 関東地区医療部会、城西病院 西本願寺 結城青年会議所	サルミエント・ロドリゴ クリアンクライ・プティヤビブン スラ・プロムチャン
	●補助給食 4月に入り、難民の強制移動が実施され、JVCの活動地はサイト2（旧ノンチャン村より北に約50kmの国境沿い避難地）に移り、4月15日よりそこでドライパックを、病院、MCH（母子保護施設）へは食事の配給を開始した。	WFP/UNBRO	武田長久、浜野敏子 トンチャイ・クラタルムボン 連尾慶治 プレムチット・スリホン カヌエンニット・ゾーンマユラ マーシャ・イシイ
バナニコム （第三国定住待ち 難民一次収容施設）	●文化オリエンテーション 本年度から日本語学校は閉校となり、以下の活動に変更となる。 ①日本語の日常会話の習得 ②日本に関する概略的な情報伝達 ③日本へ行くまでの手続き等の理解を深める	天理教千葉	浜崎妙子、常田正行 落合正幸
地域開発 （仮称）	●バンコク市内のスラム地区 奨学金援助：スラム地区定住児童のための学費援助 図書館：6区にあるバンコク市の青少年センターの一角を借り受け活動を開始した 建材提供：スラム立ち退き者、あるいはスラム内に保育所等を建設する際の物資援助	モロロジ-MIRC NTV、JOFIC 庭野平和財団 YMCA横浜 聖ヨゼフ老人ホーム	タウィチャイ・タムクナノン ヴァラナット・ドゥアンウドム 加藤哲也 ウィティバン・ラタナタリー
	●農村地区 前年度までに建設した井戸の補修、管理。		ブンナム・チャルンブリトゥム カモン・ミンムアン
人材派遣プロジェクト			
シンガポール （ホーキンスロード・キャンプ）	●UNHCR - ベトナム難民キャンプでの管理・運営	日本YMCA同盟 アジアキリスト 教会議	ニール・リー
フィリピン （パターン・プロセッシング・センター）	●国際移民委員会（ICM）- 第三国定住手続きにともなう医療業務	城西病院	青井千恵

**急募** 農業技術者、栄養士、保健婦（詳しくはソマリア担当、柴田まで TEL: 03 (316) - 3253)

## JVCの活動とその目的に御理解を

▶JVCとは—Japan International Volunteer Centerは1980年2月、タイのバンコクで設立された民間救援団体です。1979年暮れの、インドシナ難民の大量流出をきっかけに、日本から駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人とが一体となり、現在の組織の原形ができました。JVCは、活動者の自発的な意志に基づき、日本の個人・団体からの寄付金、国連機関からの委託金他によって運営されています。JVCは、人種、国籍、習慣、宗教その他の信条の違いを越えて、難民および同様の窮境にある人々を対象にできる限り継続的な活動を行います。

▶JVCの会員募集について—会員は、総会に出席し、JVCの方針などを決定する他、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・上映会・学習会等へ参加することができます。また正会員には自動的に、機関誌(T/E)をお送りいたします。会員の種別と年会費は以下の通りです。

- ・正会員 (一般会員 10,000円 活動者会員 3,000円  
 団体会員 30,000円 学生会員 3,000円  
 ・賛助会員 金品による支援(金額は自由です。)

▶機関誌『Trial & Error』のみの購読について

- ・毎号1冊送付 年間購読料 3,000円
- ・毎号4冊送付 年間購読料 10,000円

▶送金の方法—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。

- ①会員：東京5-48365 加入者名—JVC会員係
- ②T/E：東京3-54186 加入者名—JVC東京事務所  
 (住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。)

▶みなさまの募金を支えるJVCの活動—救援活動をより充実させるため、以下の募金をお願いしています。なお募金の20%をJVCの運営経費に充当させていただいています。

- インドシナ難民救援募金(6月小計 28,000円)タイ国内にある各難民キャンプのプロジェクト費にあてられます。
  - クロントイ・スラム募金(6月小計 1,000円)バンコクのクロントイ・スラム内の図書館の運営およびスラム立退き者のための建築資材購入費に使われます。
  - デッグ・スラム奨学金(6月小計 54,000円)バンコク市内のスラムの子供達が学校へ通う費用を援助します。
  - アフリカ難民救援募金(6月小計 212,669円)アフリカの難民・飢餓民への救援プロジェクトに使われます。
  - 日本語家庭教師募金(6月小計 0円)定住難民のための日本語教材費と家庭教師の交通費に使われます。
  - 医療募金(6月小計 8,000円)緊急事態が発生した場合、速やかに医師を派遣したり、医薬品などの緊急救援物資を輸送するために使われます。
  - ボランティア募金(6月小計 10,000円)現場で活動を続けるボランティアの健康管理費にあてられます。
  - JVC運営経費募金(6月小計 2,000円)現場を支えるのに不可欠な事務運営経費、人件費に使われます。
  - 無指定募金(6月小計 61,950円)
- ▶送金の方法—下記の口座へ郵便振替にてご入金下さい。  
 東京9-27495(募金種目名をご記入下さい。)  
 加入者名—JVC東京事務所

## 編集後記

▶初めて編集というものにかかわりを持ちました。A・G氏佐久間女史ともに編集の仕事は職業としている方でその手際の良さにただひきづられて行ったという感じです。やはりその道のプロは違うものです。三人ともに英語に悩まされながらのOXFAMへのトライでした。自分自身がまだOXFAMの全体をつかみきっていない気がします。JVCを通してすでに十分な関心をもつみなさんの一助になればと思います。(高野)

▶「変革に飢える」とOXFAMの開発教育について書いてあるパンフレットを訳して下さった、一児の母、果山さんの感想—「参考のために概略だけ書くつもりで読んでいてもその教え方の一つ一つにこんな方向性もあると興味を覚えてしまっ、つい細かく訳してしまいました。広がりや深さを持つ活動をまとめるに際して、「思いあまって言葉足らず」がスタッフのひとりの思いです。(佐久間)

▶好奇心の衰えを感じていた私が、JVCのソマリアプロジェクトにひかれて、農林業など畑違いの本を読んでいる。そこには思いがけない発見がある。一点突破全面展開というお歳が知れるが、ひとつのことにこだわることは、新しい世界、新しい自分像を発見させてくれるものらしい。

(A.G)

昭和60年7月20日発行(毎月20日発行)

編集人 下園 宏司 前川 昌代

発行人 星野 昌子

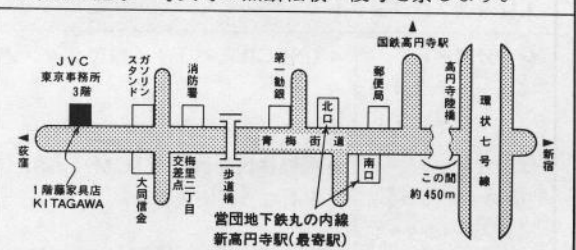
発行所 日本国際ボランティアセンター(JVC)東京事務所  
 〒166 東京都杉並区阿佐谷南1-1-5 安田ビル3F  
 ☎03(316)3253 Telex: 2323187 JVCCHQ

バンコク事務所 JVC THAILAND  
 67 South Sathorn Road  
 Bangkok, THAILAND ☎(286) 4857

ソマリア事務所 JVC SOMALIA  
 c/o UNHCR P.O.Box 2925  
 Mogadish, SOMALIA  
 Telex: 794 HICOMREF SM

印刷所 ㈱ベスト・プリンティング

\*本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。



定価 送料共 300円